

「まるごと与板」で 鍛冶のわざを披露

6月16日(土)、アオーレのナカドマは与板をPRするたくさんのブースが立ち並んだ。与板ゆかりの日本画展の開催に伴い、地域が一丸になって「歴史と文化伝統の香り高いまち与板」を発信しようと企画されたもの。匠会の会員も、「村のかじや」の古式鍛錬儀式披露と鍛冶体験、そして「木遊会」の鉋の薄削り体験と削り華教室に分かれて、打刃物を使う楽しさを市民にアピールした。



ふいごで風を送り、ホドで鉄を赤らめて銚で叩いて鍛え上げる… 伝統打刃物の工程は、初めて目にする市民がほとんど。

興味しんしんで立ち止まって見入る人、カメラや携帯のシャッターを押す人、たちまち人だかりができて大賑わいのテント前。与板でもなかなか「ふいごまつり」の機会以外は、こうした手造りの工程を見るのが少ない。これを機に、11月の「ふいごまつり」を一度みんなで見直し、産業観光の視点から市観光課とも連携をとって、与板の秋のイベントとして押し出していったらどうであろうか。一考の価値はありそうだ。



鍛冶の技と削りの技、両方あつての打刃物

与板の刃物は、全国の宮大工さんや職人さんたちに称賛され使われてこそその打刃物。「刃物を造る」現場と「刃物を使う」現場。専門の職人さん相手もだいじだし、一般のお客さん相手に展開する方向性もだいじ。その双方があることが、刃物産地としての層の厚みを増す、必要な要素ではないか。6千人を動員した今回のイベントを通して確認したことはそのことだ。

匠会が設立されて二年目のことしはぜひ、「産地与板」が外から見て一枚岩になって進むことを強く望みたい。

新会員「長谷川木工さん」ようこそ！

待望の新会員、長谷川木工さんを心より歓迎したい。打刃物には欠かせないだいじな柄の部分を受け持つ、与板で最も重要な職人の一人だ。「匠会」はもともと鍛冶屋さんに限ったPRの会ではなく、打刃物のまち与板を発信する総合的なメンバーで構成される。長谷川さんの加入は、会のあらたな可能性を広げてくれたものと喜んでいる。